



に

にちれん  
日蓮に

ゆかりの深い

えんきよう  
円教寺

えんきようじ  
円教寺

日蓮上人は、日蓮宗を開いた鎌倉時代の僧で、文永八年（一二七二）に幕府の命により龍の口で処刑されそうになりながらも奇跡により、死を免がれて佐渡ヶ島へ流されることになりました。寺伝によるとその折、座間を通り鈴木家へ休息しましたが、その時円教坊という法号を鈴木家へ与えました。それが、円教寺の起りといわれています。

このお寺には日蓮上人が使ったといわれる紺紙金泥の法華経写経が一卷と鐙一対があり、市の重要文化財となっています。

に